

こんにちは、四月になりました。

こんにちは、四月になりました。新入生の・・・と、いつもなら始まるのですが、今回は『此の冬の雪は少なくて・・・』と。いつもの年なら裏庭に積み上げた雪山が5月連休頃に解けて消えるのですが、今年は4月上旬迄早まる事でしょう。気象の異常がもたらす現象ですが、なかなか味なものですね。しかしこの後、農業用水の不足や害虫の生存等のマイナス面が飛び出して来るかもしれません。



物事を議論する時にでてくる文言に、“費用対効果”が有ります。投資した額に見合うだけの効果が得られるかという事ですが、現在の流れで考えると、効果が望めない物が多くなると思われます。たとえば除雪のことも、上下水道のことも、数家族の住む部落の為に行うよりは中心地区に集合住宅を用意して冬季だけでも移住して貰ったほうが経費節減になるでしょう。この理論で薦めると、なんかぎすぎすした住み難い社会になってしまう感じが大きいですね。

働き方改革の議論が熱くなっておりますが、私達医者に関しては、先送りされました。診察を求められれば、断れない医師の法的義務と、地域的な偏在との理由からであるようです。偏在を取ってみますと、都会でする仕事も、過疎地域で夜昼分かたずに携わっても同じ評価である事などが、解決出来ない大きな理由の一つになっていると考えます、偏在を解消する為に、大学医学部入試に地域枠が設定され、地元出身者の合格が有利になったり、卒業者には奨学資金返済が免除される等の特典がありますが、それも数年のみで、其の後の長い期間は全く同じ扱いになるわけです。子息の教育や、自己研鑽の利便等を考慮すれば、それこそ費用対効果が望めない田舎の生活が嫌われるのは、目に見えていることなのです。



ずっと昔に、東北地方には“寒冷地手当”が有りましたし、今でも尾花沢地区の冬季タクシー運賃は、割り増し扱いになっております。そのような地域特別扱いが行なわなければ、根本的な解決は望めないのかもしれないですね。大きな、解決策が見えて来ない問題ですね。

お花見の団子など程々にして、きれいなそして可憐な花を楽しみましょう。

平成 31 年 4 月 19 日 院長 清治 邦夫